

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成25年9月5日(2013.9.5)

【公表番号】特表2013-500886(P2013-500886A)

【公表日】平成25年1月10日(2013.1.10)

【年通号数】公開・登録公報2013-002

【出願番号】特願2012-523226(P2012-523226)

【国際特許分類】

B 3 2 B 27/40 (2006.01)

C 0 8 G 18/00 (2006.01)

C 0 8 G 18/42 (2006.01)

C 0 8 G 18/48 (2006.01)

B 3 2 B 5/18 (2006.01)

C 0 8 G 101/00 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 27/40

C 0 8 G 18/00 F

C 0 8 G 18/42 F

C 0 8 G 18/48 F

B 3 2 B 5/18

C 0 8 G 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成25年7月22日(2013.7.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

従って、本発明はまた、

() 表面材層、

() ポリエーテルポリオール(B . 1)、ポリマーポリオール(B . 2)、ポリウレア分散体(B . 3)、ポリエステルポリオール(B . 4)およびPIPAポリオール(B . 5)からなる群からの少なくとも1種の化合物からなる定着剤層、好ましくは、ポリエーテルポリオール(B . 1)、ポリマーポリオール(B . 2)、ポリウレア分散体(B . 3)からなる群からの少なくとも1種の化合物からなる定着剤層、並びに

() ポリウレタンおよび/またはポリイソシアヌレート含有フォーム層を含むフォーム複合材要素であって、層が() - () - ()の順に、好ましくは() - () - () - () - ()の順に配置されているフォーム複合材要素も提供する。

本発明の好ましい態様は、以下を包含する。

(1) A) 表面材を供給する工程、

B) 表面材に定着剤を適用する工程、および

C) 定着剤にポリウレタンおよび/またはポリイソシアヌレート含有フォーム層を適用する工程

を含むフォーム複合材要素の製造方法であって、定着剤が、ポリエーテルポリオール(B . 1)、ポリマーポリオール(B . 2)、ポリウレア分散体(B . 3)、ポリエステルポリオール(B . 4)およびPIPAポリオール(B . 5)からなる群から選択される少な

くとも 1 種の化合物からなることを特徴とする方法。

[2] 表面材の材料が、アルミニウム、鋼、ビチューメン、紙材、無機不織布、有機纖維含有不織布、プラスチックシート、プラスチックフィルムおよび／または木材板を包含する、上記〔1〕に記載の方法。

[3] 定着剤が 2 ~ 8 のヒドロキシル官能価を有する、上記〔1〕に記載の方法。

[4] 定着剤が 15 ~ 500 の範囲にヒドロキシル価を有する、上記〔1〕に記載の方法。

[5] 定着剤が、ポリエーテルポリオール (B. 1) およびポリマーポリオール (B. 2) からなる群から選択される少なくとも 1 種の化合物からなる、上記〔1〕～〔4〕のいずれかに記載の方法。

[6] ポリマーポリオール (B. 2) が、ポリマーポリオールに基づいて 1 ~ 45 重量 % の充填剤を含有する、上記〔5〕に記載の方法。

[7] 20 g / m² ~ 50 g / m² の量で定着剤を表面材に適用する、上記〔1〕に記載の方法。

[8] 定着剤を適用する前に、表面材を 20 ~ 70 の温度に加熱する、上記〔1〕に記載の方法。

[9] フォーム層が、ポリイソシアネートと、ポリエステルポリオールおよびポリエーテルポリオール含有反応混合物からなる群から選択される少なくとも 1 種の化合物との反応から得られ、反応開始時にイソシアネート基と反応混合物中ヒドロキシル基のモル比が 100 : 100 ~ 400 : 100 である、上記〔1〕に記載の方法。

[10] フォーム層の見掛け密度が 30 g / L ~ 48 g / L である、上記〔1〕に記載の方法。

[11] ポリエーテルポリオール (B. 1)、ポリマーポリオール (B. 2) およびポリウレア分散体 (B. 3) からなる群から選択される少なくとも 1 種の化合物の、フォーム複合材要素の製造における定着剤としての使用。

[12] 定着剤が、ポリエーテルポリオール (B. 1) およびポリマーポリオール (B. 2) からなる群から選択される、上記〔11〕に記載の使用。

[13] 表面材とフォーム層の間の接着力が 0.20 N / mm² ~ 1.00 N / mm² である、上記〔1〕に記載の方法によって得られたフォーム複合材要素。

[14] () 表面材層、() ポリエーテルポリオール (B. 1)、ポリマーポリオール (B. 2)、ポリウレア分散体 (B. 3)、ポリエステルポリオール (B. 4) および PIPA ポリオール (B. 5) からなる群からの少なくとも 1 種の化合物からなる定着剤層、および () ポリウレタンおよび／またはポリイソシアヌレート含有フォーム層を含むフォーム複合材要素であって、層が () - () - () の順に配置されているフォーム複合材要素。

[15] 層が () - () - () - () - () の順に配置されている、上記〔14〕に記載のフォーム複合材要素。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

- A) 表面材を供給する工程、
 - B) 表面材に定着剤を適用する工程、および
 - C) 定着剤にポリウレタンおよび／またはポリイソシアヌレート含有フォーム層を適用する工程
- を含むフォーム複合材要素の製造方法であって、定着剤が、ポリエーテルポリオール (B. 1)、ポリマーポリオール (B. 2)、ポリウレア分散体 (B. 3)、ポリエステルポ

リオール(B . 4)およびP I P Aポリオール(B . 5)からなる群から選択される少なくとも1種の化合物からなることを特徴とする方法。

【請求項2】

定着剤が、ポリエーテルポリオール(B . 1)およびポリマーポリオール(B . 2)からなる群から選択される少なくとも1種の化合物からなる、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

ポリエーテルポリオール(B . 1)、ポリマーポリオール(B . 2)およびポリウレア分散体(B . 3)からなる群から選択される少なくとも1種の化合物の、フォーム複合材要素の製造における定着剤としての使用。

【請求項4】

表面材とフォーム層の間の接着力が0 . 2 0 N / m m ² ~ 1 . 0 0 N / m m ² である、請求項1に記載の方法によって得られたフォーム複合材要素。

【請求項5】

()表面材層、()ポリエーテルポリオール(B . 1)、ポリマーポリオール(B . 2)、ポリウレア分散体(B . 3)、ポリエステルポリオール(B . 4)およびP I P Aポリオール(B . 5)からなる群からの少なくとも1種の化合物からなる定着剤層、および()ポリウレタンおよび/またはポリイソシアヌレート含有フォーム層を含むフォーム複合材要素であって、層が() - () - ()の順に配置されているフォーム複合材要素。